

ピースフェア2019を終えて

ちば・戦争体験を伝える会 市川まり子

6回目となるピースフェアを、6月12日～16日の5日間、きぼーる1階アトリウムで開催できました。ステージ発表とパネル展示で、主催2団体を含めて参加71団体・個人、参加者約300名を含めて、来場延べ人数は2,100名を数えました。きぼーるは、5月から中央区役所が入り、保健福祉センター・子ども交流館・科学館と、子どもから高齢者まで幅広い人々が行き交う施設で、多くの皆様に戦争の実態を伝える展示や様々な市民活動の紹介、素晴らしいステージをご覧いただき、戦争の悲惨さと平和の大切さを実感していただけたことと存じます。

高洲第三小学校旧6年2組の『長く続いた戦争と人々の暮らし』の展示では、昨年11月に、ちば・戦争体験を伝える会と千葉市空襲と戦争を語る会のメンバー9名で紙芝居と体験談の出前講座で伺った時に教室に掲示されていて今回貸し出しをお願いした「戦争」をテーマにした調べ学習のまとめに、当日の私たち「ゲストティーチャーさん」との交流の報告も追加されていました。子どもたちによるまとめのすばらしさと、「戦争」について多面的に考えさせる授業に取り組まれていることへ、感嘆の声が上がっていました。毎年ご参加くださる、近くの本町小学校の子どもたちの作品の展示と合唱、花園中軽音楽部の皆さんの歌とギター演奏、千葉朝鮮初中級学校の皆さんの歌、ステージで楽しいSONG&DANCEを披露しに遠くから来てくださるいすみっこの皆さんと、子どもたちの参加はとてもうれしいです。今年も、千葉中央おやこ劇場さんが折り紙・あやとりコーナーを日曜日に開いてくださって、子どもの居場所ができました。

今回、「憲法施行72年 千葉市空襲74年 戦争を繰り返さないための集い」のテーマとして、「子どもたちの戦争」を掲げ、子どもたちが見た・出会った千葉市空襲・東京大空襲、そして、その中での「朝鮮から来た少年・少女」の体験を取り上げることにしました。体験者を探す中で、エッセイ集『海をわたった家族』をご紹介いただき、内容に感動し断りもなく紙芝居の台本を作り、著者の安順伊さんのご了解をいただくために娘さんの李成慧さんにお会いし「どなたかに絵を」とお願いして、李さんに描いていただくことになりました。8歳の時、徴用で北海道の炭鉱へ送られた父に呼び寄せられて母や妹とともに海を渡ってきた少女の目で見、体験した北海道での生活、過酷な労働、事故、脱出、移り住んだ茂原での恐ろしい空襲体験、辛かったいじめ・差別体験、終戦・・・と、分かりやすい文章で語られ、優しい線と色彩で描かれ、李さんによって内容も再編集され、母子お二人の思いのこもった共同制作の紙芝居『海をわたった家族』が完成しました。15日(土)午後の集いで、李成慧さんご本人によって上演され、「私は二度とこの地で戦争が起こることがないように、差別のない平和な世界、思いやりとやさしさで人々が当たり前前に穏やかに暮らす世界を、願うのである」という言葉が、皆さんの胸に染みわたりました。

パネル展示では、昨年引き続き「憲法はじめの一步」の皆さんにより『憲法条文シール投票』が行われました。交代で「あなたの好きな条文は？」と来場者に語り掛け、パネルの前でシールを手を考え込む子どもや大人の姿が見られました。それぞれの展示の前に人がいることで、説明だけでなく、問いかけや対話が生まれ、さまざまな交流がなされました。

ステージ発表もパネル展示も、このピースフェアの1回目からご参加の皆さんから今回初めて参加して下さった皆さん、準備・撤収作業に駆けつけて下さっている皆さんと、本当にたくさんの方の力で支えられているピースフェアです。毎年手探りで心もとなく準備を進め、それでも必ず開催した成果があったと実感できます。上演中の騒音など、配慮が足りなかったこと、お詫びします。これに懲りずに、また来年も、よろしく願いいたします。